

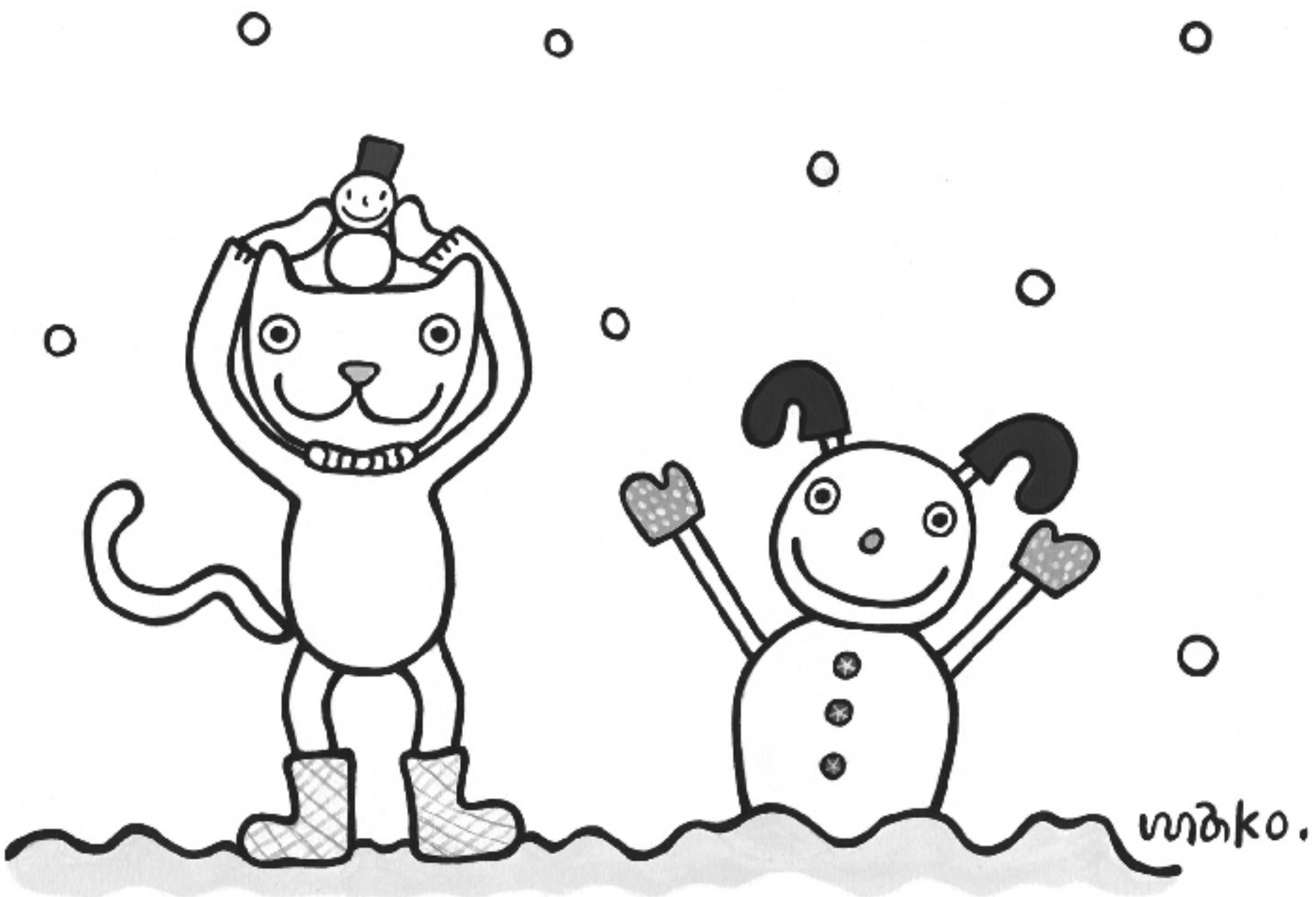
編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円
振替口座00940-0-161341
「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう
特集：ユニバーサルデザインのスタジアムに-2
わす
リレーエッセイ：忘れられた皇軍-村上博-4
こうぐん むらかみひろし
だつげんばつ そうてん とちじせん いしづかなおと
「脱原発」が争点となった都知事選-石塚直人-5
せつ はい はなし い くち みきお
石けんライフ-灰の話-猪ノ口幹雄 6

題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)



ヒカリ

絵：まこ なまこ

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

名護市長選で『沖縄タイムス』の社説は「敗れたのは国と知事だ／：国の露骨な圧力をはね返して勝ち取った歴史的な大勝である。同時に仲井真弘多知事への、辺野古埋め立てを承認したことに對し、市民が明確に拒否したことも意味する」と報じた▲『産経』は「辺野古移設の最新線に位置する。在日米軍の基地の再配置が円滑に進むかどうかは、抑止力のありようや同盟の安定性に重大なかわりをもつ。辺野古移設は政府の責任で決定する問題であることを理解してもらいたい」と論じた▲ハルピンの「安重根記念館」公開で『読売』は「日本の立場や国民感情を無視して作られた記念館は、到底受け入れがたい。菅官房長官は、安重根について、我が国の初代首相を殺害し、死刑判決を受けたテロリストだ」とし、この件での中韓連携は「地域の平和と協力の関係の構築に資するものではない」と述べた▲『産経』『読売』が右寄り

だというのは自他共に認めるところだろうが、今回の「論説」はあまりにも非道いではないか。基地の押しつけと侵略について、反省どころか考慮さえする気がないことを自ら露呈した差別的暴言。それを吐いて平気なのだ！ヘイト・スピーチは新聞にまで浸透している。(ハギ)

一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

しょう とうじしゃ いけん きほん か 障がい当事者の意見を基本にバリアフリー化を

ユニバーサルデザインのサッカースタジアムに

ばんぱくきねんこうえんしゅうへん だいきほかい はつじぎょう 万博記念公園周辺 大規模開発事業

あか おひろあき
赤尾広明▶

1969年11月
生まれの44歳。
2001年から
共働事業所「
b-free」のスタ
ッフとなり、2003
年に障がい者の
自立を支援する
NPO法人自立
生活センター



フリー「FREE」の代表に就任。大阪頸髄損傷者連絡会
の会長としても活動中。

注) スパイラルアップ
「計画→実施→評価→改善」を繰り返して改善
て、常によりよいものにしていく改善
循環の手法

ガンバ大阪スタジアムのバ
リアフリー化は、「Jリーグ協会
やFIFAが示す最低基準をク
リアすればそれでよし」という
姿勢が見えます。設置基準は、

実際の使い勝手を
シミュレーションして

例えば、エレベーターが通常
の11人乗りなら、車いす2台で
いっぱいなので、大勢来ると
渋滞になります。入った方向の
まま出られる2方向仕様にする

トイレも多目的仕様にする
のは当然ですが、サッカーは、
休憩がハーフタイムしかないの
で、特に混雑します。一般用ト

昨年7月、バリアフリー化に
ついて建設募金団体に要望書
を提出しました。内容は、車い
す観戦席の場所・仕様について

や、エレベーター・トイレの
広さや数などです。協議の中
で「ガンバ大阪」側は、車い
す観戦席について、「ホーム・
バックスタンド・ゴール裏など
に設置するので、360度どこ
からでも観戦できる」と説明
しました。メインゲートがあ

る3階の最前列に車いすスペー
ス約300席を用意するという
計画です。エレベーターで5階
までは移動できるそうですが、
1・2階に関しては、「構造上、
警備上の問題があつて困難」と
しています。

私たちは特別扱いを求めている
わけではありません。一般の
サッカーファンと同じように、
観戦場所を選択できるように望
んでいるだけです。

最近増えてきたサッカー専用
スタジアムは、ピッチの間近で
観戦できます。(新スタジアム
はピッチから7メートルほどの予定)
間近で見られるからこそ、1階
の最前列で見たいというのが
サッカーファンの気持ちです。

市議会請願
全会一致で採択

万博記念公園周辺で2つの大規模開発事業
(ガンバ大阪・スタジアム建設、エキスポラン
ド跡地開発)が進められています。これにつ
いて、「吹田のバリアフリー・交通アクセスを
めざす会」(代表者・赤尾広明・以下「吹田バ
リアフリー」)が提出した請願が、吹田市議会
全会一致で採択されました。請願は、「誰もが
安心・安全に観戦・使用できるように、障が
い当事者をまじえて、①継続的に協議の場を
設けること。②設計段階や建設段階で当事者
が参画できる場を作ること。③完成後のス
パラルアップ(注参照)、を求めています。請願の紹介議員となった西川たけお議員は、

「全会一致での採択なので、市議会の意思は
明確に示されました。請願内容は、吹田市が「ス
タジアム建設募金団体」と三井不動産(株)に伝
え、3月議会で結果が報告されます。誠実な
対応を期待しています」と語っています。
今号では、「吹田バリアフリー」代表の赤尾広明
さんに、スタジアム建設におけるバリアフ
リー化の現状をお聞きしました。赤尾さんは、
高校生時代、アメフトの選手だったこともあつ
て、Jリーグが開幕してからは何度もスタジ
アムに観戦に行く大のサッカーファンです。
「ファンだからこそ、使いやすいスタジアムに
して欲しい」と願っています。(文責・編集部)

を自由に選べるのに、車いす
利用者は、3階に限定されてし
まうのは、障がい者権利条約が
謳う「合理的配慮」に欠ける
対応です。「1階は、ボールが飛
んできて危険」という声も聞き
ますが、ファンとしては臨場感
を味わえるので本望ですし、そ
れは自己責任だと思つてます。

「構造上の問題」にしても、
スタジアムなら必ず救急車が出
入したり、物資を運び込むた
めの通路があるはず。それ
を利用して1階の観戦席に誘導
するルートを確保するのは、
構造上無理とは思えません。
私たちは特別扱いを求めている
わけではありません。一般の
サッカーファンと同じように、
観戦場所を選択できるように望
んでいるだけです。

当事者が意見を言う大切さ

吹田バリポツ 事務局 波那本 豊

「吹田バリアフリー・交通アクセスをめざす会」一とても長い名称なので、「吹田バリポツ」という略称で書かせていただきます。

「吹田バリポツ」は、2012年12月に発足しました。障がいのある人もない人も、また高齢者や子供など、誰もが安心・安全に暮らしやすい吹田を目指し、ユニバーサルデザイン・バリアフリー推進を図るために、障がい当事者が集まって立ち上がりました。

吹田では、エキスポランドの跡地、ガンバ大阪の新スタジアム、東部地区（JR岸辺駅周辺）、西吹田駅など4つのプロジェクトが動いています。「吹田バリポツ」として、まず4つのプロジェクトに関わり、利用しやすい施設・駅・交通にするため、各機関と協議を行ってきました。

すでに動き出している場合などは、協議を行ってもなかなか話が進まないことが多いのですが、協議をしないわけにはいきません。皆さんの大切な税金や寄付などで建てられるワケですから、たくさんの方が喜んでくださる施設や駅にしないと意味がありません。協議によって、1つでもバリアを減らすことができれば一つ、私たちの喜びも増えます。

「吹田バリポツ」は、吹田の街が住みやすい、遊びにしやすい街にすること！も、目標です。駅のバリアチェックも行い、市や企業に改善のための要望書を提出させていただいています。

回答書もいただくのですが、だいたい「場所的にできない」とか「財政的に苦しい」とかの回答が多く、もっともっと協議の場を持たなければいけないのかも知れません。

どんなプロジェクトでも障がい当事者が参画していく必要性があると、この一年間の活動の中で、今まで以上に実感しています。

バリアを減らしていくには、障がい当事者が意見を言うっていくのが一番コスト的にも安いことを、たくさんの人たちに伝えていくことも大切です。シンポジウムなどで伝えていきたいと思っておりますので、開催の際は、お集まりください。

より良い街にしていくには、たくさんの方の意見をお聴きし反映させていく力が必要です。ご協力よろしくお願ひします。

イレに行列ができれば、多目的トイレも混雑するので、車いす利用者はハーフタイムにトイレを利用できなくなるでしょう。スタジアム建設予算は、約140億円なのですが、全額寄付金で賄う計画です。現状で30億円ほど不足しています。寄付が集まらない場合、設備の仕様が切り下げられ、トイレやエレベーターの数が減らされたり簡易化されることを心配しています。

「日本初！ 寄付金だけで建設するサッカー専用スタジアム」というふれこみで寄付金募集が始まったのですが、まだ

市民を巻き込んで 大きなうねりを

まだ寄付が不足しているようです。募集期限を延長して、目標を達成しようとしています。昨年12月に着工しているのですが、世界に誇れる高機能フルスペックで、誰でも楽しめるスタジアムになって欲しいです。



▲完成予想図

づいたスタジアムにしてほしいと強く希望しています。具体的には、多様な障がい当事者が計画段階から参加して、意見を述べる場はとても重要です。案内板も、英語や韓国語など外国語表記のものだけでなく、ひらがな表記の案内板も必要です。視覚障がい者が見やすい文字の大きさや配色、音声案内などの配慮も重要です。

「市民に開放されたスタジアム」として、オフシーズン中には、市民スポーツ大会などにも使われる予定です。その際、車いす利用者が「芝生が傷むから」という理由で拒否されることはないので、心配していません。

4万人も収容する大規模スタジアムですから、迷子になった時に、誰もが適切に行き先がわかるように、わかりやすい図面や標識を設置するなどの配慮も必要です。少数派の人にも配慮したスタジアムであって欲しいと思います。

「ファン感謝デー」で芝生を解放するというイベントがありました。私たちも列に並んだのですが、「芝生が傷むから」という理由で入場を拒否されました。シーズン中で芝生が傷んで困るといのはまだ理解できなくてもいいですが（それでも差別的扱い）、オフシーズン中まで「車いすお断り」は困ります。

障がい者は、生活全般にわたって何かと排除される経験の中で生きています。サッカーを楽しむみたいという気持ちは、障がいとは無関係です。応援に来たのに理不尽な扱いをされたら、トイレに行けず苦勞したり、いった嫌な思いをすると、楽しい思い出が台無しになってしまいます。サッカーを楽しむ人が、気持ちよく観戦して、気持ちよく帰って行けるような場所であって欲しいのです。

地元が一体となって 応援したい

「吹田バリポツ」は、障がい当事者として声を挙げていますが、「全ての人の声じゃないでしよう」と返されてしまっています。障がい者全体の声として要望する必要があると思います。高齢者や妊婦の方々も、気持ちよく観戦できるような声を上げていけば、もっといいスタジアムになります。市民を巻き込んで、運動を進めたいと思います。

ところが、吹田にスタジアムができることすらほとんど知られていないのが現状です。スタジアムの建設費は寄付金でまかないませんが、寄贈後の運営費は市民の税金からとなりますので、多くの方に関心を持って欲しいと思います。

バリアフリーは、障がい者だけの問題ではありません。スタジアムは、防災拠点として利用され、食糧も備蓄するので、吹田市民全体の問題です。